

令和6年度

学生によるオレンジリボン運動

長崎純心大学 実施報告書



実施主体 長崎純心大学 福祉・心理学科

実施内容 街頭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・ 長崎県福祉保健部こども政策局こども家庭課職員の方による講話（虐待の現状など）
- ・ 児童養護施設職員の方による講話
- ・ オレンジリボンの作成

②実施期間に取り組んだ具体的内容

長崎県こども家庭課と協力し、長崎駅前にて市民に向け、児童虐待防止に関するリーフレットやオレンジリボンなどを児童虐待防止のシンボルカラーであるオレンジのTシャツを着用して配布するとともに、広報啓発を行った。

③オレンジリボン運動を終えて…

参加した学生の感想

〇オレンジリボン運動を通して、足を止めて話を聞いてくれたり、興味を持ってくれたりする方々は多く、児童虐待や育児放棄などは多くの人の関心がある問題なのだと感じた。

私は、今回の活動をするまではオレンジリボン運動という言葉が知らなかったし、内容についても想像もできないほどだった。だが、今回初めて活動をしてみて、児童虐待や育児放棄の問題についてより興味が深まり、活動をした後はより深く知りたいと感じた。そのため、児童虐待について友達と意見を出してみたり、政策について話したりと、実際にオレンジリボン運動をしてみることで今までよりも「知りたい」という感情が大きくなったように感じた。

〇私たちがオレンジリボン運動をしたことにより、地域の人々に日々ニュースになっている児童虐待が社会問題になっていることを改めて感じていただけたら良いと思った。このオレンジリボン運動を通して、私自身以前よりも児童虐待について考えるようになり、なぜ減少しないのか、本当に親だけが悪いのか、など深く考えられるようになったことや街の人と話すことで自分もまだ児童虐待について知らないことが多いため、勉強の必要性を感じた。オレンジリボン運動に参加して良かったと思った。

